

あいさつ運動の好事例

勝田郡勝央町立勝央中学校

(生徒数276名 教職員数37名)

きんとくんがやってきた！

～生徒会を中心とした生徒の自主的な取組～

アピールポイント

生徒会本部が生徒総会で勝央町のゆるキャラの「きんとくん」をあいさつ運動に招こうと提案。見事可決され、実施となった。生徒会長が町役場に電話をかけ、日時等を検討。生徒が主体性をもち、行動して実現となった。

あいさつ運動は、毎年恒例の活動でマンネリ化していた。しかし、今回の企画では、いつもよりも笑顔が多く見られた。活動は一週間行われ、学校支援ボランティアの方々や美作警察署の方々とともに活動することが出来た。

実際の様子



取組の概要

■生徒の実態 学校規模は、生徒数276名、1・2・3年とも3クラス、特別支援学級が2クラスである。真面目で落ち着いた生徒が多いが、授業規律の遵守、コミュニケーション能力の向上、リーダーやサポーターの育成などの課題もある。

昨年度より、学校全体でピアサポート活動、SEL（社会性と情動の学習）、協同学習の取組を開始しており、生徒同士で支えあい、学び合う学校風土をつくらうとしている。

■活動内容 勝央町のゆるキャラ「きんとくん」を招き、一週間のあいさつ運動週間を企画した。校門のところで、朝登校する生徒にあいさつを行った。

■取組の参加メンバー 生徒会本部（6名）・各専門委員長（5名）・生徒有志（約5名）・校長・生徒会担当教員・学校支援ボランティア（3名）・美作警察署（3名）

■成果・効果 以前からあいさつ運動は生徒会活動として行っていたが、少なからずマンネリ化もあった。それを打破する効果があった。生徒会本部の生徒が達成感と充実感を感じることが出来た取組であった。